

人権まちづくり新聞



第31号
編集発行
枚方人権
まちづくり協会

平和と人権への思い新たに

舢松人権歴史館・堺市立平和と人権資料館で現地研修

十月四日、厚い雲に覆われた空を心配しながら現地研修に向かいました。

舢松人権歴史館は、堺の被差別部落の歴史を通して、「差別をなくそう」「自分は差別をしない」と部落問題を自分の問題として学ぶ施設です。まず、舢松の歴史について話を伺い、その後館内を見学しました。「はんらく」と呼ばれた狭



再現された「はんらく」

い路地や劣悪な住居環境が再現されていました。また、そのような厳しさの中でもたくましく生き抜いた人々の暮らしも紹介されていました。将棋名人坂田三吉さんも舢松の出身です。没後に日本将棋連盟から名人位と王将位が追贈された方です。また、全国水平社の結成にも関わった泉野利喜蔵さんが、「一誠会」を作り

学習会をした中川家の新工場跡などもフィールドワークで、実際に見学することができました。

堺市立平和と人権資料館では、戦争の悲惨さ、人権の大切さ、そしてお互いの人権や地球環境を守ることの大切さを訴え、次世代に伝えていきます。人権ゾーン、

環境ゾーン、平和ゾーンに分けて資料をわかりやすく展示していました。心配された雨にも遭わず、人権について学ぶ有意義な研修となりました。

◆シリーズ◆ 人権な 街角

シニア向けの授業を開催

2回目の小学校

今回は、シニア向けの授業を開催されている「2回目の小学校」代表中川欽太さんに伺いました。第二・



四の金曜日サプリ村野の一時利用室に元気な挨拶と出欠点呼の声が聞こえてきます。創立十五周年を迎えた2回目の小学校の朝です。設立当初二十四名であった生徒数も今は六十名となりました。平均年齢七十七歳の元気な後期高齢者達です。国語、算数、理科、社会、音楽、体操など小学校の授

業になぞらえて、枚方市のこと、年金制度や健康など、日々の生活に関することを勉強しています。また皆で歌ったり、年一度観光バスで行く「大人の遠足」では観光や見学とホテルバイキングを楽しんでいます。高齢者の生涯学習を目的として八人で構成する学級委員会が運営し、運営費用は参加費で賄っています。とてもパワフルな学級委員長さん達に元気をもらいました。

枚方人権まちづくり協会の相談事業

- ＜人権まちづくり協会＞
サンプラザ1号館5F
TEL 072-844-8788
[人権なんでも相談]
- ＜男女共生フロア・ウィル＞
ステーションヒル枚方6F
TEL 072-843-5636
■女性のための相談
[電話相談]
第3火 15:00-20:00
水 13:00-17:00
木 10:00-15:00
専用電話072-843-7860
[面接相談]※
水 13:00-16:10
第1木・第3火 16:00-19:30
第2・4・5木 13:40-16:50
金 10:00-13:50
[法律相談]※
第1木 17:20-19:50
第1土・第2金 13:20-15:50
第4火 10:20-12:50
■男性のための電話相談
第1土 14:00-17:00
第3火 18:00-20:00
専用電話072-843-5730

[地域就労支援相談]※
月～水・金 9:00-17:30

[進路選択支援相談]※
火 13:00-17:00
18:00-20:00

※の相談は予約が必要で電話で予約してください。

僕は絵本の中で初めて出会った

『食肉業と差別』 絵本作家 中川洋典さんが講演

十一月二十七日、枚方市総合文化芸術センター別館にて、絵本作家の中川洋典さんを招き、人権講演会を開催しました。

昨年に続き、市内の公立小・中学校教員へ人権教育を進めるため、研究事業等に取り組む枚方市人権教育研究協議会との共催で実施しました。

中川さんは、絵本作家として最初に取り上げたのが太鼓についてでした。太鼓を作る職人にその製造方法などを取材する中で、太鼓の皮が牛の皮から作られ、



かつては、その仕事を被差別部落の人たちが担っていたことを知りました。

さらに取材を続け、牛の皮をなめす(柔らかくしたり、長持ちさせる方法)工程を詳しく描き、その皮から作られる財布や手袋などの「小物」や靴に関する絵本を続けて制作しました。

これで一区切りがいったと思っていたところ、編集者から次は牛の肉、骨、内臓について書いてみませんかと勧められて、食肉市場で牛が解体される様子や職人からの聞き取りなどの取材を重ね、絵本『きみの家にも牛がいる』を描きました。取材により、牛一頭があらゆる部位を残すことな

く活用されていることに感嘆すると共に、牛を取り扱う人々が偏見にさらされ、不当に差別されてきたことを知りました。

中川さん自身も、このと

きに牧場の牛がいつも食べている牛肉と繋がった瞬間でもあり、食肉業に携わる職人の仕事について、「牛がかわいそう」などといった感情を入れずに、正確に伝えたいと決意されました。

講演では絵本をスクリーンに映し出し、「肉ははじめから『ある』ものじゃない。いろいろな人の手を借りて

『つくられる』ものなんだ』と朗読されました。

参加者からは「この仕事が必要ならば、おいしい肉が食べられないことを子どもに伝えていきたい」等の感想が寄せられました。

あらためて、我々の生活が、さまざまな動物の尊厳に支えられていること、その命を日々大切に切り扱っている人たちがいることも認識しなければならぬと感じました。

人権文化セミナー 「あふれでたのはやさしさだった」

十一月七日、作家で詩人の寮美千子さんの人権文化セミナーが開催されました。

奈良少年刑務所が開催する一般公開に参加したことをきっかけに、後日「刑期を終え社会に戻った時の生



活のため、寮先生の絵本と詩を使って美しい言葉で授業をして欲しい」と所長さんに依頼されたそうです。

そこでの経験は寮さんの人間観も世界観も大きく変えました。最初の授業では、「絵本を読む人」と尋ねても誰一人声が出ない。「次までに詩を書いてきて」と宿題を出しても反応がない。三回目の授業で「好きな漢字を一字」と問うと、ポツ

人権映画会と監督トーク

2021年日本民間放送連盟賞テレビ部門グランプリ受賞作品

ようこそ!多様な人たちが働きやすいチョコレート工場へ

チョコレートな人々

2025年3月4日(火) 13時30分～

於; 枚方市総合文化芸術センター 関西医大小ホール

ンと「僕は『青』が好き」と言った彼。幼くして母を亡くし、母の顔も知らなかった。彼らは皆、死にたいくらい辛い過去を持っていました。何も訊かず気持ちを受け止め、自分から話すまで待つ授業。一人の発言から連鎖反応で氷が融けてお日様の方向へ。土の塊だった子に温かい心が戻りました。人権を知らないことで差別を生み、知り合うこと、寄り添うことが差別をなくすのでは、と結ばれました。